



雑草は世話をしなくても、どうして生えるの

雑草の種は、そこら中に飛んでいる

雑草の種は、いろいろな方法で遠くから運ばれてきて、芽を出します。タンポポのような、キクの仲間に入るハルジオンやノアザミなどは、綿毛ができて、風によって飛んできます。カタバミやスミレのように種をはじき飛ばすもの、種そのものが軽くて風に飛ばされてくるもの、アリや鳥が種を運んできたり、イヌなどの毛にくっついてくるものなど、さまざまです。

また、地上の草が枯れたり、むしりとられてなくなっても、根が、土の下の深い所に残っていて芽を出すもの、根が横に広がってふえるものなどもあります。

じょうぶな雑草だけが生えてくる

雑草は、人間が長い間かけて改良してきた、園芸用の草花とちがって、とてもじょうぶです。人間によくふまれる所には、ふまれるのに強いオオバコなどが残ってふえます。水が少ない所には、乾燥に強い雑草が生き残っていきます。日があまりあたらない、水はけもよくないような所には、そんな所でも生きていける雑草が、ちゃんと生えてきます。

植物の種は、水と空気と、適当な温度があれば、芽を出します。雑草の種は、芽を出した後、ぎりぎりの生活ができる所ならば、強くたくましく、生きていけるのです。

日本は、雨が多く、気温も、一部の場所以外は、とくに高温や低温にはなりません。ですから、雑草が生えやすいのです。砂ばくのような所や、南極などでは、雑草もあまり生えることができません。（監修・矢野 亮）

